



TIAニュース

NO. 9 1996

編集・発行 財団法人 高松市国際交流協会
〒760 高松市番町一丁目11番63号 アイバル香川内

「国際交流」あたりまえのように使われるこの言葉は、パターン化されたイベントやプログラムをさすだけの流行語になってはいないでしょうか。私たちの日常の中にこの言葉が活性化されるにはどうあるべきか。井原先生の御寄稿は、この点について示唆に富んだ指針となると思います。

筆者は香川大学経済学部教授、(財)高松市国際交流協会の理事。本年3月下旬から10月下旬まで、文部省から派遣されてドイツのシュトゥットガルト大学で研究中、外国で生活しながら国際交流についての感想をとの求めに応じて、9月初めにこの一文を寄せられました。

国際交流に思うこと

井原 理代

アパートの部屋の窓に目をやると、はるかに広がる青い空の下、木々の深い緑と芝生の淡い緑の中に家々の赤いレンガ色が点在し、まるで絵葉書のような風景が見られます。

ドイツのシュトゥットガルトで生活するようになって約5ヵ月。当初は、生活の仕方の違いや会話の不自由さなどから戸惑うことが多く、また、大学では外国からの留学生や研究者は多いのですが、日本人は少なく、私の所属するインスティテュートでは1人だけという状況ですから、心細い思いでもありました。しかし、いつの間にかそんな戸惑いや心細さも消え、自然にこちらの生活に親しみ、地域住民のような気持ちで暮らすようになりました。

このように比較的短期間にこちらの生活に溶け込むことができたことを今不思議にさえ思いながら、その理由を考えますと、国際化のための、あるいは外国人のための特別な取り組みによるのではなく、むしろ外国人を特別にではなくあたりまえに受け入れるという人々の基本的な姿勢によるような気がします。シュトゥットガルトは多様な産業構造を誇るバーデン・ヴュルテンベルク州の州都ですが、そうした特別な取り組みについては、あまりないように思うのです。いわゆる外国人のためのイベントはこれまで聞いたことがありませんし、空港や駅における表示も、美術館や博物館の案内もほとんどドイツ語ですから。しかし、そこに住む人々は外国人に対して隣人のように、あるいは友人のように接する姿勢をもっていることを強く感じます。アパートの住民たちは、



住み始めたばかりの私に、廊下やエレベーターで出会うと必ず挨拶の言葉をかけてくれ、また、近くのマーケットの店員さんは、二、三回も行くと挨拶を交わし、お買得情報を教えてくれたように。あるいはまた、先日メガネの修理のためにメガネ屋に行き、ドイツ語での意思疎通が思うようにいかず困っていた



ところ、お客さんの一人が「助けましょうか」と声をかけ英語を仲立ちとして助けてくれたように。

このような外国人をあたりま

えに受け入れる姿勢によって、私は、この地に馴染み、多くの人たちと親しくなることができたことを考えますと、このような姿勢こそ国際交流にとってきわめて大切であるといえるのではないのでしょうか。そして、このような姿勢がつくられる背景には、ヒトの国際化もモノの国際化もあたりまえになっている状況があるように思われます。確かに、そうした状況は枚挙にいとまがありません。大学に通う電車の席で隣り合わせに座った4人が髪の色も肌の色も違うというのは日常のことですし、「朝市の野菜は新鮮よ」と教えられて行くと、みずみずしいイチゴや色彩かな花々がオランダ産であったり、つややかなリンゴがイタリア産であったりします。また、大学で「イギリスから講師の先生が来るから出席しませんか」と誘われて、「ワーキングセミナーに参加してみると、それは期せずしてイギリス、アメリカ、セネガル、中国、日本そしてドイツの研究者による国際セミナーになっていました。

このように考えてきますと、国際交流のために求められることは、これを特別なこととして、特別な配慮を講じることながら、これをあたりまえのこととして、言い換えると、外国の方々と同じ地域住民として、隣人としておつきあいする姿勢のように思うのです。そして、わが国ではそうした姿勢にかかわるヒトやモノの国際化がまだ欧米ほど進んでいないとすれば、その進行を望むとともに、私たちは、高松にいられた外国の方々と同様に高松に住む市民同士としておつきあいたいと思うところです。



行 事 報 告

高松青年会議所と共催の「国際交流青年の集い」は、子供たちも参加して、9月16日、17日の2日間、五色台少年自然の家を拠点に行われました。台風接近で、16日夜のキャンプファイヤーは、キャンドルサービスに切り替えたりというハプニングはありましたが、充実した内容で、日本人にはもちろん外国人にも大変喜ばれ、言葉の障害を超えたディスカッションにも熱気があふれました。

* 餅やうどんを作って食べたり、山の中を歩いて自然の美しさを満喫する野外活動等、全く素晴らしい行事でした。特にその計画運営に携わった皆さんに深く感謝いたします。皆さんが一生懸命に、熱心に、責任を果たして、外国人には新しい体験をさせようと非常な努力をしている姿に敬服しました。こうして皆さんは世界に平和な、政治的、経済的、教育的活動を展開しているのです。『歳月でなく、行為の中に人は生きる』という言葉がありますが、それは人生の主目的は単に長生きすることではなくて、生きている間にできるだけ善行を積むことだという意味です。何も良い行為をしないで何年も生きる人がいるかと思えば、立派なことをして、若くして死に、未長く世の人に惜しまれる人もいます。私たち留学生もこんな行事に参加することで相互理解のチャンスや素晴らしい環境にめぐまれるのです。特に実施にあたった方々のやさしい言動に心打たれました。積極的な協力、誠実さ、熱心さには全く頭が下がります。心から感謝します。そしてこの思い出は生涯忘れられないでしょう。これからも、専門の研究と併行して、このような行事に参加して、交流を深め、世界の平和と進歩に貢献したいと思います。

〈Dr. Mohammad Malbubur Rahman Bhuiyan〉

バングラディッシュ人。香川医大外科二科で前田昌純教授のもとで心臓外科を研究中。同じく医大で歯科研究中の奥さんと子供の三人で三木町在住。

シオンにも熱気があふれました。参加者の一人、Dr.Mohammad Malbubur Rahman Bhuiyan さんからは、長文のエッセイを頂きました。全訳する予定でしたが、紙面の都合で、残念ながら抄訳のみを載せることになりましたが、みごとなペンマンシップは、鑑賞に値するので、ぜひ、協会に見に来てください。また、章燕莉さんには、中国人を代表してのご意見を、正統で立派な日本語でいただきました。外国人の日本語習得力の秘訣をぜひ学びたいものです。

* 来日以来、三ヶ月余りになりますが、初めてこのような行事に参加する機会を得ました。僅かな時間でしたが、様々な国や地域の人々と語り合うことができ、改めて国際交流の有意義さを再認識しました。また、もちつき等の日本の古来の風習に触れることが出来たことは日常生活では得難いものであり、日本を理解する上で大いに役立つものと思っております。

私は今後の日中関係がますます友好的になることを望み、一中国人として、機会があれば外国のみならずわが国をさらに理解していただけるよう努めたいと思います。

最後になりましたが、この度お世話になりました高松市国際交流協会、高松青年会議所のみなさま方に厚く感謝申し上げます。

〈章燕莉〉

中国江蘇省江州市からの留学生。目下、穴吹学園日本語学校にて日本語を学習中。



子供と私の南オーストラリア旅行

丸井 淳子

「淳子、必ずオーストラリアへ来るね。来ないと友達やめちゃうよ！」このおどしのような言葉を残し、シェリルは去年12月に高松を去りました。シェリルはアテレード大学から香川大学に日本語留学に来ていたアンティさんの奥様です。偶然、図書館で声をかけてからおつきあいが始まり、シェリルが去る頃には同じ子育て中の主婦として、すっかり意気投合してしまっただけです。シェリルのうれしい脅し(?)に迷うことなくオーストラリア旅行を計画し、子供達と共に夏休みの間、アテレードで3週間、タスマニアで1週間、のんびりとそして時にはびっくりドッキリの旅をしてきました。

1ヶ月もの間異国で子供達と旅行をすると、心に残ったことは数えきれないほどあったのですが、特に印象に残った事は、オーストラリア人の自然を守る意識と、そのやさしさにはぐくまれてのびのびと生きている動物たちでした。子供達にとって、動物園にもいない珍しい動物を抱いたり、えさをあげたりできたこと、とても新鮮だったようです。子供にはその時代にしか味わえない感動がありますが、動物とのふれあいはまさにその感動そのものでした。

アテレードもタスマニアも大都市ではないせいか、人々の

やさしさと治安の良さは子供連れの私にはとてもうれしい事でした。歴史の短い国とは言え、アボリジニの迫害という苦い歴史がある上、第二次大戦参戦の経験などから、平和への願いや人々の触れ合いはとても大切にしているように思いました。食生活や福祉、教育の面でも高い水準を保っているオーストラリアの人々は、内面の豊かさを考えながら生活しているように思います。

タスマニアでは大学見学ができたのですが、アジア各国から語学留学にきている学生たちが、自国をはなれて、オーストラリアという国で、他のアジアの学生と交流を深めています。アジアのことを考えるとき、その国の方ばかり向かず、このような環境でお互いを理解し意見を述べることはとても有意義だと思いました。

海外旅行の醍醐味はやはり外国を見て、自分を見詰め直すことにあると思います。母親業と主婦業に追われて、あまり難しいことは考えたくないのですが、今このことを日本の日常生活の中で考え続けています。

最後にとても学ぶことが多い旅でしたが、1ヶ月の間淋しさ太りをしてしまった理解ある夫に心から「ありがとう」を言います。

※アボリジニ(aborigine)…オーストラリアの原住民のこと。

ブラジルの話

ブラジルで十二年間日本語を子供たちに教え、五年前に帰国された、ヒラタ・カヨさんと夫のジョゼ・ハイムンド・フェレイラ・テ・アルメイダさんに、教育、文化、生活、料理など、ブラジルと日本の文化を経験してこられたお二人に貴重なお話を、いろいろな角度から伺ってみました。

Q. ジョゼさんに、はじめて日本へ来た時の印象を一言。

- ①東京に着いたとき、雪が降っていたこと（ブラジルでは雪は降らないので）
- ②日本の家が小さく部屋が狭いこと
- ③町並みの美しさと人ごみにびっくり

Q. ブラジルで、お薦めの場所は？

- サルバドールです。アフリカから黒人がブラジルに入ってきた最初の町です。アフリカの音楽、食べ物、文化が今も堪能できます。景色も抜群です。また、一年中泳げます。

お二人に、ブラジルと日本のお国事情の違いについて語ってもらいました。（インタビュアーは松井・長町）

サンバとカーニバルの国ブラジル。地球の裏側にあるこの国が奴隷解放に踏み切ったのがやっと1888年。今では最も人種差別のない国として知られています。大勢の日本人移民を受け入れているのでも有名です。日伯友好通商航海条約が締結されたのが、1895年、今年がその100周年にあたるので様々な記念行事が行われ、記念切手も発行されました。高松に来られているブラジル人は100人を超えます。私たちはブラジルについてもっと知ってよいはずですね。



ブラジルの相違点の表

ブラジル	相違点	日本
食料・生活用品が安い	物価	食料などが高く、カメラなどが安い
とてもゆるやかでのんびりしている	時間の流れ	早過ぎて、余裕がない
すべての店が、完全週休二日制	お店	土・日でも開いていてにぎやか
今を楽しむために働く	価値観	生活、老後、教育などのために働く
大好き！友達の友達もみんな友達	パーティー	ほとんどない。心のつながりが薄い
自分の安全は自分で守る	安全性	日本では、安全が当たり前
貧富の差が大きい	経済	安定していた、平均的に豊か
自分の仕事だけやっておれば良い	仕事	自分の仕事のほか、まわりの人間関係まで心配りが必要
勉強は学校、躾は家庭	教育	日本の学校は、勉強と躾の両方が要求されている。
外出は夫婦同伴	夫婦	夫婦同伴の外出が少ない
宗教心があつく、神の存在が生き方のベースとなる。	宗教	宗教心のある人が少ない
八年	義務教育	九年
立派な社会人となるために、どの家庭もお手伝いをさせている。	家庭のお手伝い	あまりしない。 塾、学校が忙しくて、時間がない。

まだまだ、尽きない相違点ですが、この比較の中から、両国の良所を融合させながら、今、日本で三人のお子さんと共に生活されているジョゼさんとカヨさん。飛行機で二十数時間の遠いブラジルが、お二人のインタビューをとおし、コー

ヒーの香りと共にとても近くに感じられました。

ご夫婦の夢は将来、海の近くのサルバドールで、のんびり田舎暮らしがしたいとのこと。素晴らしい自然と人間の温かさをはぐくむ“未来の国”ブラジルに乾杯！

今夏も、St. Petersburg の女子高校生が来高してホームステイ研修をしました。ホストを引き受けて下さった内のお二人に感想を書いてもらいました。

初めてのホストファミリー

小島 久美子

ある日の朝の事。長女(21才)が市報を見てホストファミリーを募集していることを知り家族に相談もなく申し込みをしました。私が知ったのは、国際交流協会より電話が頂いたときです。どうせ申し込んだのは娘たち(次女19才 三女16才)なので放っておけば良いと思っていましたが、実際リラが来たら放っておけませんでした。話をしたいが英語が話せない。やっと通じたら言ってることがわからない。長女がいないと会話ができない。頭の中がパニックになりました。

昼間は、娘たちが車に乗せて海水浴、カラオケ、スポーツジム、ショッピング。そして長女がサラ(もう一人の留学生)とリラをつれ、道後温泉バスツアーに参加しました。

リラがきて3日がたち我家になれたころ三女と二人でショッピングに行きました。日本語のわからないリラと、英語のわからない娘が無事に買い物ができるのか、大変心配になりました。しかし、二人は意気投合したらしくなかよく帰って来ました。

あつと言う間に一週間がすぎリラは我家から去って行きました。しばらくしてリラから手紙がきました。長女が仕事(添乗員でいなかったので読むのに半日かかりました。その内容は「宏美(長女)が帰ってきたら電話が欲しい」と言うことでした。その夜、我家に大事件がおきました。リラから電話がかかってきたのです。「HELLO?」「はろ〜」私は、三女がいたずらしているのかとおもいましたが、リラでした。「HELLO HIROMI?」「宏美……わーく びじねすわーく 帰っててれふおん するけん ばいばい」

自分の知っている限りの英語を使って対応しました。

次の日、やっと長女が帰ってきたのでリラのところにすぐ電話をかせせました。道後温泉にいったときに砥部焼の窯元で絵づけした花瓶のことが気になっただけのことです。私の英語もちゃんと伝わってほしいです。

一週間だけのホストファミリーでしたがいろいろなことが経験できてよかったです。また、機会がありましたらいろいろな国の方をお迎えしたいと思います。



甲木 寮子

昨年の秋、私たちはオイスカの研修生でジュンというフィリッピン人の青年のホストをしました。日本に来て半年でしたが、英語が苦手な主人ともテレビを見ながら相撲やゴルフの話をしたり、ビールを飲む時は、「うまいんだな、これが」を連発したり、日本語が上手でした。小学校の運動会ではリレーに出た娘を大きな声で「ガンバレ」と応援してくれました。「暑いからかぶつたら」と帽子を渡そうとしても「フィリッピンじゃこんな慣れとるから平気」といった具合です。今

は国で指導者として活躍しているはずで。

今年の夏はセントピーターズバーグ市の高校生を引受けました。サラという名前で、以前ホームステイしたマレーシアの女性もサラだったので、わが家の四人の娘もすぐ仲良くなりました。食事は何でも食べ、スキヤキとごはんが大好き、いつもご飯のおかわりをしてくれました。手巻き寿司をした時、自分で何個か巻いて食べたのち、ご飯を食いたいというので、「Do you have rice ball?」と聞くと「Yes please.」そこで私がおにぎりを作ろうとすると、不思議そうな顔をするので「Do you mean rice bowl?」というと「Yes」といいながら大笑い。長女と同じ年なのでテレビ雑誌を見てアイドルの話に花を咲かせたり洋画のピアオの説明してもらったりととても楽しそうでした。

二度のホームステイをして感じたことは、外国の人は言葉を学ぶ姿勢がとても真剣だということです。分からない言葉はその場ですぐ聞いたり辞書をひいて理解するまで調べるのです。見習うべきだと思います。子供たちもとてもいい影響を受けたと思います。これからも出来る範囲でホームステイを引き受けたいと思います。

= 人物紹介 =

ジェイソン・ファヴェロ
(Jason Färveröt)



* 1995年8月30日水曜日、高松空港に着くやいなや、たちまち珍しい名前や顔の洪水に飲まれてしまいました。様々の年齢と部署の方々に名刺をいただき、歓迎を受けました。着いてもう一カ月にもなりますが、未だ多くの人に挨拶され、歓迎の言葉をいただいて知り合いになっています。それぞれにこやかに微笑を浮かべて英語で声をかけてくれます。小さい子供たちも「カジンだ」と顔を見合わせた後で、「ハロー」と言います。高松はとても興味深い町だと思います。風景も市民も素晴らしいので、これから一年間どんな冒険や、発見があるかと大変楽しみです。どうぞ、よろしく。

ニューヨーク生まれのフロリダ州サテライトビーチシティ育ち。エッカード大学でコンピュータサイエンスを専攻、この夏卒業して一年間高松一高の英語指導講師として来高。市民学校講師、市内中学校訪問もする。サーフィンやセーリング等海のスポーツが好きだが在日中は日本語をしっかりと勉強して将来は商社で働きたいと言っている。

ガエラ・ドゥストゥール
(Gaelle Dussutour)



姉妹都市トゥール市から行政研修生として、9月から来年2月までの半年間、高松市役所に勤務しています。彼女はいつも辞書を持ちあるいて、すでに、流暢な日本語を完璧にしようがんばっています。夏には高松まつりに参加して踊りましたが、ゆかたがとつても似あっていました。また12月の着物コンテストにも参加しました。

『日本の伝統に興味があります。着物もきれいだし、お寺も興味深いです。お寺は、形とカ屋根とかが好きです。フランスの教会には庭がないけど、日本のお寺や神社には庭があり、落ち着いた感じ。このまえは、こんびらさんに行きました。』と日本の印象を語っています。

今秋、姉妹都市セント・ピーターズバーグに親善研修生として、NITの石丸睦子さん、東芝の寺川佳江さん、伸萌会の花房つやみさんの三名の市民を派遣しましたが、心のこもった歓待をうけ、貴重な体験、研修をしたうえ、アトランタとニューヨークを経由して帰国しました。経験したエピソードもまじえ、寺川さんにレポートしていただきます。なお報告書は近く、簡単な冊子にまとめますので、配布ご希望の方は、協会までお申し込みください。

再認識 / Freeな国 America

寺川 佳江

11月1日、私たち姉妹都市親善研修生トリオは、高松市の姉妹都市・フロリダのセントピーターズバーグ市へ出発しました。タンパ空港に到着した時は、市が手配してくださったキャッシーさん・ビルさんご夫妻、アキコさんが出迎えてくれました。

初日は、二番丁小学校と姉妹校のマキシモ小学校を訪問しました。中でも驚いた事は、大学生が外部から来てマンツーマンで子供に勉強を教えている姿でした。日本で言えば家庭教師が学校の教室内で教えている事になります。この教育方針に感心しました。又、子供達によってビデオが作られ、学校内で放送されていました。その週に成績が1番だった子が出演したり、購買の商品の案内などです。それらは子供の創造力を豊かにするための教材の様です。教頭先生にお会いし、自由な服装にも驚きと感動を覚えました。なんと緑色の背広！

2日目は、高知の土佐山田の小学校と姉妹校であるガルフポート小学校を訪問し、ここでは、以前土佐山田を何回か訪れたことのあるアメリカ人女性カンプトンさんが週に3日程、子供達に音楽の授業で太鼓を教えていました。掛け声はもちろん日本語です。子供達も楽しそうにバチを叩いていました。その後フリータイムが設けられ、私達3人は子供達に取り囲まれ、質問責めに合いました。中でも「日本語は幾つあるの？」と聞かれ、「ひらがな・カタカナは50、漢字は2000位知っていると新聞が読めるよ」と言うと、1人の男の子は「僕はアメリカ人でよかった」と言っていました。また、マキシモ小学校とは違った体験ができ、良い思い出となりました。

最終日には、各ホストファミリーや市の関係者の方が集まってパーティーを開いてくれました。ここで私たち3人は訪米前に一生懸命練習した阿波踊りを披露し、最後には全員揃ってにぎやかに踊りました。

次の訪問地アトランタでは、なが〜い食事をする羽目になりました。と言うのはホテル内のレストランでの夕食のことです。オードブルが来たまでは良かったのですが、次の料理がなかなか来ないので。おかしいなと思いつつもメインディッシュを食べ終わる迄に2時間。ここまではまだ許容範囲。紅茶を注文すると冷たいカップとぬるいお湯。しかもティーバック。飲めたものではなかったのでウェイターを呼んで「HOTじゃない」と言うと、厨房に行ったので、てっきり熱いお湯を持ってきねくれるものと思いきや待たされる事15分。代わりのお湯を持ってくるとスマイルで口を尖らせ「ホ〜ットですよ！」まるで、いやみでした。その後もケーキを注文して、口に入るまで待つこと15分。結局この食事には3時間かかってしまいました。しかし今となっては楽しい思い出。アトランタの紅葉は素晴らしいものでした。

ニューヨークでは、車の量と運転の荒さに驚きました。ガイドいわく、相手にぶつけさなければどんな運転をしてもよいとのこと。さすが世界のニューヨーク。また、エンパイア・ステイトビル1階にある『大吉』という寿司屋に立ち寄った所、レジの横にゴミ箱が2つあり、1つには“Please recycle. Thank you!”もう一つには“Can, Bottle only”。そしてその下に日本語で「どうぞ、再循環ありがとうございます。」「空き缶、そして空き瓶ばかり」と書かれていました。日本でも時々変な英語が表示されているのを目にします。やはりどの国でも間違った訳がある様です。ニューヨークはとても魅力的でした。ブロードウェイのミュージカルの素晴らしさ、世界のアートが揃っている数々の美術館や博物館、そして古い建物も大切にしているマンハッタン。エンパイア・ステイトビルからの夜景はとても素晴らしく、霧度という寒さも忘れる程でした。

セントピーターズバーグ市では、皆さんに親切にして戴き感謝しています。この研修での様々な経験を生かし、今後の活動に役立てることができればと思っております。

◀ 耳寄りな話 ▶

お向かいの岡山県に『国際交流ヴィラ』があるのをご存じですか？外国の方にくつろいだ日本の暮らしを体験してもらう施設が6つできています。一泊3,000円で外国人又は外国人に同伴する日本人は気軽に利用できるそうです。日本の伝統や生活に直接ふれて理解を深めるために、外国のお友達に勧めてみてはいかがですか？

問い合わせ先：岡山市奉還町2-2-1 岡山国際交流センター
Tel./Fax. (086) 256-2535

● 你愿去日本人家中做客

“百聞不如一見” 要想了解日本人家庭的日常生活、最好的方法是親眼去看一下那里会有新的発見、新的邂逅在等待着你。歡迎你来高松市国際交流協会、我們將為你“牽線搭橋”。

Tel. 0878-37-6003 Fax. 0878-37-6005

● ホームステイ / ホームビジット

受け入れボランティアの募集

留学生を始め、市内外の在住外国人の中には個人的に市民の家庭を訪れて見たい方がいます。協会には、そういう人を半日とカー泊で受け入れて、日常生活の中で親善交流をして頂くボランティアを登録するプログラムがあります。あなたもぜひボランティア登録をしてください。きっと新しい視野がぐっと開けます。

● Why not visit a Japanese home

“To see is to believe” goes an old saying. Taking advantage of your stay in this city, how about paying a visit to a Japanese resident at his or her home for a few hours or overnight. You are sure to find something new and some new encounters with the Japanese way of life. Those who want to visit and see how things are in a Japanese house, please contact us at I-pal Kagawa (Tel. 37-6003). We will try to find cooperative families and help you to make friends with more Japanese.

日 本 で の 感 想

中国・西安墙体材料研究院 王 興義



私は中国西安から来た研修生です。

来る前、日本について知っていることは、経済が発達し進んだ技術をもつ近代的で礼儀正しい島国だということだけでした。日本へ行けば先進技術を習得でき、外国語の勉強も出来るので帰ってから大変役立つと考え去年七月日本に来ました。

来日後、機械CADと日本語の勉強も続け、又、観光や幾つかのイベントに参加したので日本の事情がある程度わかる様になりました。

一、仕事について

日本人の仕事に取組む態度は厳しく真面目で、仕事は早く休憩時間は少ないです。日本の発展は一生懸命働いて作り出したものです。

二、社会について

○国際化

日本では世界各国から外国人が、就職・留学・研修で来ており、又、世界各地に出張所や工場を持ち、グローバルな交流が広範囲に渡っています。

中国では毛沢東の時期に国を閉ざしたので、その期間経済発展が阻害されたが、現在は鄧小平の対外開放政策による経済発展を加速するこのことができました。

○専門化

日本では専門化が進み、かつ、社会間協力の範囲が広く高品質な製品を造るのに有利です。

中国では概して大規模で自社でなんでも造るため余剰人員を抱え、品質向上には不利な結果をもたらしています。

○コンピューター化

日本ではOA化が工業から生活の隅々まで活用され、高速化・正確化・効率化の追求のほか日本人の教育水準の高度化とソフトの発展にも反映しています。中国では社会制度が異なり、教育水準が低く、会社の業務が量的に多くなく、人件費が電力に比べやすく、コンピューター普及にも影響を与えています。

○お客様は神様

日本の顧客に対するサービスはアメリカより優れています。これは本来礼儀の重視と競争が激しいことに由来すると思います。中国では私企業で少しずつ向上していますが、国営は仕事の責任感が薄く競争も激しくないため、サービス水準は憂慮すべきものがあります。

○高齢化

日本の老人人口比率が高く、社会も高齢者がコントロールして若者の昇進機会が少ない様です。この点、中国では三十過ぎの部長・課長が多く見受けられます。

日本は老人が引退後も仕事をしています。七十過ぎの腰の曲がった老人が力仕事をしているのを見かけますが、中国の老人は引退後はのんびり生活して日本より幸福だと思います。

○高消費

日本の物価は高い。高松で一つしか買えない西瓜が西安で二十個以上買えます。住宅ローン、税金・保険金・教育等は国が費用を負担するので生活は日本に比べて楽だと思います。

三、人の性格について

一般的に日本人は大変礼儀正しく言葉使いも分別をわきまえています。表現が婉曲です。中国特に北方の率直さに比べずごく違います。私の接触する友達はせっかちな人が多い様です。同僚の付き合いは仕事の上だけで退社後の交流はありません。中国では同僚の家庭を訪問したり、ピクニックに行ったりして、相互に助け合うのとは大変違います。

中国は現在、日米等の先進国について学習し社会制度も変革中の段階です。「今日の日本は明日の中国」という見解もあります。経済が発展し、生活が充実することは勿論歓迎すべきことですが、「物価高・仕事の虫・親切心のなさ」は大変怖い事です。

以上が日本での一年間に得た私の大雑把な認識です。

筆者は中国西安墙体材料研究院の職員、米国視察の後、現在(1994年7月~1996年7月)㈱トーカイFA事業部に企業研修生として勤務している明朗で誠実な好青年で日本語・英語も大変上手です。これも原文のままです。

〔日本語クラス募集中！〕

1 I-PAL KAGAWA では、第三期日本語講座の受講生を募集しています

お申し込み、お問い合わせは、I-PAL KAGAWA まで Tel. 0878-37-5901 0878-37-6003

ク ラ ス Class	日 曜 日	時 間 Time	講 師 Teacher	期 間 Term	受 講 料 Class fee	教 材 費 Text book
入門Ⅰ (Beginners Ⅰ)	火 Tuesday	9:00~10:30	山下 直子	1/16~3/26	¥3,000	¥2,000
入門Ⅰ (Beginners Ⅰ)	土 Saturday	9:00~10:30	山下 知美	1/13~3/23	¥3,000	¥2,000
入門Ⅱ (Beginners Ⅱ)	土 Saturday	10:40~12:10	山下 知美	1/13~3/23	¥3,000	¥2,000
初級Ⅰ (Elementary Ⅰ)	土 Saturday	10:40~12:10	坂本 まり子	1/13~3/23	¥3,000	¥2,000
初級Ⅱ (Elementary Ⅱ)	土 Saturday	9:00~10:30	山下 直子	1/13~3/23	¥3,000	¥2,000
初級Ⅲ (Elementary Ⅲ)	土 Saturday	13:50~15:20	服部 敬子	1/13~3/23	¥3,000	¥2,000
中級 (Intermediate)	土 Saturday	10:40~12:10	宮崎 正子	1/13~3/23	¥3,000	* *
中級応用編 (Advanced)	土 Saturday	9:00~10:30	アイパル職員	1/13~3/23	¥3,000	* *
初級A (Elementary A)	金 Friday	18:00~19:30	毛 勇	1/12~3/22	¥3,000	¥2,000
初級B (Elementary B)	金 Friday	18:00~19:30	藤岡 由希子	1/12~3/22	¥3,000	¥2,000

◀ グループ紹介 ▶

高松市内にも多くの民間のグループが、それぞれにボランティアの国際交流を活発に展開しているTIAニュースでは、国際交流を志向している方や身近なグループに参加して活動したいと考えている方の為に、それらのグループを順次紹介していきます。

K. I. C. A. or KAGAWA INTERNATIONAL CULTURAL ASSOCIATION

毎月一回、主として月末の日曜日午後二時から四時まで英語を話す会を始めて早や15年になる。少しでも多く英語を自由に話す機会をもとうとして始めた会で、高松在住の外国人にもメンバーになっていただいて、西洋文化、日本文化、又新聞に載っている話題から自分の趣味にいたるまで、話し合ってきた話題は180を超える。参加した外国人の出身地もアメリカ、イギリス、カナダ、オーストラリア、ニュージーランド、ケニア、ザンビア、フィリッピン、インドネシア、インド、中国等様々だ。5年前チェアパースンをしたアメリカ人には先日メンバーの一人がハワイで再会した。

15年間年会費は2,000円だったが、昨年3,000円にアップした。こんなに安価に英語を楽しめる！話せるようになるには何よりも話すことに慣れることが第一だ。

私たちKICAのメンバーは英語に慣れると同時に外国の方々と話すことによって国際理解を深め、有意義な人生をおくる一つの手だてとして今後とも努力していきたいと思っている。現在メンバーは約35名いる。

連絡先) 穴吹荘三 高松市川部町1801-2 Tel.0878-86-1667

フ レ ン ズ

7年前、築地公民間でのガイドボランティア講座から、国際人になるために外国の歴史や伝統、文化的背景などをもっと勉強しようという人達の中に芽生え、「国際化を考える会フレンズ」として育ってきた。毎月第一、第三火曜日の午後1時半から2時間築地公民間で、外国人を講師に英語で外国のことを勉強している。現在、第一火曜日にはギリシャ人、第三にはアメリカ人から直接それぞれの国について学んでいる。特にギリシャ人との交流はこのあたりでは貴重な体験である。

会員は発足当時は30名近くいたが、転勤その他でだんだん少なくなり現在は15名である。しかし全員定着して毎回欠席者は殆どいない。「国際化を考える会フレンズ」のこれからの課題としては、いつまでも「考える」勉強会に終わらないで、そろそろ勉強してきたことを、「行う」会に発展させていくことだと思っている。出発が「ガイドボランティア」なので、少しずつ実際の活動に結び付けていきたいと願っています。

連絡先) 丸浦静香 高松市中野町21-17 Tel.0878-34-6801

●ボランティアのための7か国語会話 **発売中**

ボランティアがホームステイで外国の方を自宅に受け入れるとき、想定できる会話を英語、フランス語、スペイン語、ポルトガル語、中国語、韓国語の6か国語で表現してみました。基礎的な表現に限られていますが、利用ご希望の方は当協会まで直接または電話でお申し出ください。1部500円です。その他、当協会では、在住外国人のために生活ガイド〔英・中〕、市内地図〔英〕、姉妹・友好都市紹介パンフを用意しています。

ド ー ナ ツ 会

7年前異文化交流グループとして産声をあげたこの会は、その名前の通りみんなで〈ドーナツ〉のような輪を作り楽しく交流しようというものである。英語に興味のある人や帰国子女、イベント好きの主婦等、色々の職業の人たちが集まってスタートした。会員は現在約50人。3月のエッグハンティングや10月のハロウィン等、手作りで外国の祭を企画しているし、香川県在住の留学生たちとの交流にも力を入れている。各国の自慢の料理や菓子を持ち寄るポットラックパーティを開いてインドネシア、タイ、パキスタン、中国からの学生と交歓することもしばしば。国の歌を熱唱したり、妻や恋人の話もでて、留学生はなかなか話題が豊富だ。帰国子女のいじめの問題、子供の英語、外国人の雇用問題に取り組む等この会の関心と活動領域は多岐に渡る。異文化体験を通じて外国に対して知的好奇心を持ち、互いに切磋琢磨する——そんなグループがドーナツ会である。

その他、主婦やOL、学生を対象にした外国料理の教室も再々開き、中でもハロウィン前のチョコレート作りは人気を呼んでいる。同時通訳の勉強会も計画的に持ち専門家から実地研修を受ける、実際にその道にすすんだ会員も多い。

連絡先) 富永京子 高松市亀井町11-6 Tel.0878-31-3241



香 川 S G G 募 集 /

〔香川ISGG〕(香川善意通訳の会)は、香川の国際化、国際交流の一翼を担うべく取り組んでおり、現在新会員を募っています。

- ・香川県内在住又は勤務している方
- ・英語(英語検定2級程度)中国語、ハングル語、仏語等全て対象

香川ISGGは1994年11月発足以来、国際会議関係はいうまでもなく、週末のJR高松駅、栗林公園での通訳案内に当たるなど、積極的に善意通訳活動を展開している。登録会員は、12月11日現在で、最多の英語(124名)をはじめ13か国語にわたって、延べ152名、今後ますます活躍が期待されている。

入会、問い合わせ先



香川ISGG(香川善意通訳の会)事務局丸浦静香宅
電話、FAX (0878) 34-6801

生活小常識

生活廃品再利用運動

大家知道不知道、今年高松市被選為“Clean recycle town”？今年秋天、リサイクルプラザ在市立図書館の附近開業、大家不要的東西在那進行登記、希望你們去看看。

我們協會也有這樣的活動。剛來日本的留學生所歡迎的東西、回國、搬家所不要的東西、我們正在都給予登記。并在アイバル香川の告示板上宣傳。

市民体育活動

隨着年紀增長、人們越來越注意自己的身體健康、積極參加各種各樣的体育活動。高松市市民体育課也舉行以下的活動、歡迎大家參加。我們希望大家通過參加這些郊外活動、能結交很多朋友。報名和問訊：

市民体育課 0878-39-2626

- 1 星期日、星期一郊遊 每月1次
- 2 星期日自行車旅行 每月1次
- 3 早晨長跑 每月10次左右

你願去日本人家中作客嗎？

“百聞不如一見”要想知道日本家庭的日常生活、最好的方法是親眼去看一下那里會有新的發見、新的邂逅在等待着你。歡迎你來高松市國際交流協會、我們將為你“牽線搭橋”。

Tel. 0878-37-6003 Fax. 0878-37-6005

暮らしのヒント

不用品をリサイクルしませんか？

高松市が本年Clean recycle townに選ばれたことを、ご存じですか？不要になった物品を登録して交換する場所として、市立図書館の西方の11号線沿いに、この秋、リサイクルプラザがオープンしました。外国の友人と一度出かけてはいかがでしょうか。

さて、同じような趣旨で当協会でも、(譲ります、譲って下さい)のお世話をしています。来たばかりの留學生に譲ると喜ばれそうな物、転出とか帰国で不要になるものなどを受け付けています。アイバル香川の交流フロアの掲示板で周知します。ぜひご協力ください。

市民スポーツ

健康を気にする年になり、多くの人々がさまざまなスポーツに参加しています。高松市の市民スポーツ課は、定期的にイベントを計画しています。

1. 日曜、月曜ハイキング 毎月1回
2. 日曜サイクリング 毎月1回
3. 早朝マラソン 毎月10回程度

皆さんも、参加してみませんか。郊外に遠出したり、友達をいっぱい作ったりしましょう。交流とスポーツの一挙両得の行事に、外国の人をぜひさそってください。

■お申し込み、お問い合わせ先

高松市役所市民スポーツ課
Tel. 0878-39-2626

Tips for daily life

Recycling!

Do you have anything usable you want to give away, for you are leaving Takamatsu?

Do you want to find anything for temporary use or for exchange. ...used things instead of brand-new things?

Come to our office in I-pal Kagawa

Interested in walking?

This is the age of health awareness. Lots of people are participating in various sports activities. The Sports Section of the city and its associated organizations regularly offer programs of outdoor events:

1. Hiking on Sunday and Monday
...once every month
2. Bicycle Excursion on Sunday
...once a month
3. Jogging early in the morning
...approx. 10 times a month

Why don't you join them? So that you may explore rural or far away places safely and make friends with more Japanese residents. Contact the Sports Section or Takamatsu International Association for application.

高松市に今外国人はどのくらいいると思いますか？外国人登録者は総計1,823人で、県全体の約半数ばかり。11月末現在の国別の数は次の通りです。

■ヨーロッパ：

スペイン (26)
イギリス (17)
イタリア (14)
スイス (8)
ドイツ、フランス、
デンマーク、ポーランド
から各3
アイルランド、エストニア、
ブルガリア、オーストリア、
サンマリノ、スウェーデン、
から各1

■アジア：

韓国、北朝鮮 (677)
中国 (463)
フィリピン (211)
オーストラリア (18)
マレーシア (15)
タイ (13)
ニュージーランド (7)
ハンガリー (6)
インド (6)
パキスタン (3)、ネパール (2)、
モンゴル、ソロモン、スリランカ、
イランから各1

■北、中、南米：

ブラジル (109)
ペルー (83)
米国 (44)
カナダ (22)
ボリビア (11)
エクアドル (4)
パラグアイ、ドミニカ、
コロンビアから各3
アルゼンチン、ホンジュラス、
メキシコ、ニカラグアから各2
パナマ、ウルグアイ、
ウエネズエラから各1

■アフリカ：モロッコ (2)、リビア、マラウイ、タンザニア、南アフリカから各1

(編集後記)

協会事務局が、新装なった「アイバル香川」二階に移って半年余り、気持ちのいいオフィスで職員一同張り切っています。ただ不況による資金不足とともに人手不足が悩みの種ですが、ボランティアの方々のますますのご協力を得て、草の根国際交流の輪を広げていきたいと決意を新たにしています。このTIAニュースに地域の国際交流にかかわる原稿をお寄せ下さい。



1996年1月 (vol. 9)

TIA
Takamatsu International Association
財団法人 高松市国際交流協会

〒760 香川県高松市番町一丁目11番63号

アイバル香川内

TEL (0878) 37-6003

FAX (0878) 37-6005

I PAL KAGAWA, 11-63 Ban-cho 1-chome
Takamatsu, Kagawa